

道徳

教えて！加藤先生

教えて！土田先生



千葉大学教育学部教授

土田 雄一

「小学道徳 ゆたかな心」(光文書院)編集委員



筑波大学附属小学校教諭

加藤 宣行

「小学道徳 ゆたかな心」(光文書院)監修者

道徳調査から見える 道徳授業の課題と対応



教科化から1年経った 今だからこそできること

小学校で道徳科がスタートして1年。道徳授業は「主体的・対話的で深い学び」のある授業へと変わったのでしょうか。2018年に実施した、ある県内教員への調査では「道徳授業をする上で難しい点」として「発問」「終末(まとめ)」「指導方法」が挙げられていました。

教科書を活用しながら道徳的ねらいに迫る発問や適切な終末の方法、効果的な指導方法などへの不安や難しさは軽減されたのでしょうか。他にも、板書の構成やノートの活用等についても悩む声が聞かれます。

これらの課題を改善・軽減するためには、まず、達人や先輩の「授業を観て学ぶこと」から。観点を決めて授業観察をしましょう。たとえば、「発問」です。「中心発問」と併せてその前後の発問をチェックしましょう。特にねらいに迫るための「問い返し」に着目したいですね。また、共通教材をもとに「発問」を検討する研修も効果的です。課題に対する学びを深め、今まで以上に子どもたちと道徳授業を楽しみたいですね。

※達人の道徳授業の映像も参考になります。加藤宣行先生の道徳授業の様子や解説は『実践から学ぶ深く考える道徳授業』(光文書院)の付録DVDでも見ることができます。

小学校は道徳が教科化されて1年が経ちました。1年間実践したからこそ感じる手ごたえや、課題も明確になってきたのではないのでしょうか。このタイミングで、きちんと総括を行い、改めるべきは改め、さらに充実させる努力を怠ってはいけません。そうでないと、道徳授業が変わる機運を生かせずに、何となく新しい指導書通りに展開するだけになってしまい、何が変わったのかももうやむやになってしまいそうです。それではあまりにもったいないですね。そうならないために、チェックすべき項目を考えてみましょう。

まずは、年間計画の見直し。年間計画は年度当初に立てて終わりではありません。教科書ができたため、1ページ目から順番に行っていけばよいとか、指導書にある計画例をそのまま当てはめていくなどという発想になりがちです。担任する学年も昨年度と変わっているでしょうから、全校での情報交換、協議が必要です。次に、授業改善。これも指導書通りではなく、発問・展開、道徳ノート、評価等、ご自身の学級や学校に合わせた創意工夫がなされるべきです。是非、本誌に紹介されている実践も参考にいただければと思います。